

## 成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成27年12月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成27年12月17日(木) 開会：午後2時00分 閉会：午後3時38分

会場 成田市役所5階503会議室

### 出席委員

教育長	関川 義雄	教育長職務代理者	小川 新太郎
委員	高木 久美子	委員	福田 理絵
委員	佐藤 勲		

### 説明のため出席した者

教育総務部長	伊藤 和信	生涯学習部長	藤崎 祐司
教育総務課長	鬼澤 正春	学校施設課長	篠塚 正人
学務課長	江邨 一男	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	小川 浩
図書館長	須賀澤 賢治	生涯学習課副参事	木川 邦夫
学校施設課管理係長	渡邊 陽介	教育総務課課長補佐(書記)	鈴木 浩和

傍聴人：0人

### 【会議概要】

1. 教育長開会宣言

2. 教育長報告

### 主催事業等

○11月24日 平成27年度第2回成田市文化財審議委員会について

全委員の任期が9月30日で終了したため、新たに平成29年9月30日まで2年の任期の委嘱状の交付を行った。また、会議において、長い間この審議委員会の委員長を務めていただ

いた大塚先生がお辞めになったことから、これまで副委員長だった小倉博氏が委員長に、木村修氏が副委員長に選出された。なお、今回から、埋蔵文化財の分野で高木博彦氏と白井久美子氏が委員に加わり、新たなスタートを切ることになった。

○11月28日 平成27年度明治大学・成田社会人大学修了式について

本年度は明治大学から学長代理として藤江昌嗣副学長がお見えになり、修了式を行った。今年度の修了者は、国際社会課程97名、地域社会課程72名、緑地環境課程37名、合計で206名であり、昨年度の218名を若干下回った。また、修学士は25名、教学士が5名、弘学士が5名で、昨年度を上回る結果となった。

○11月29日 市史講座について

今回は、「明治「学制期」における小学校の創設と下総地区4小学校のあゆみ」と題して、学校をテーマとした講座が実施された。これは市史講座としては初めての試みだということで、参加者がどれぐらいいらっしゃるか興味深かったが、70人ほどの方が参加された。閉校した学校に残された古い資料の中には、当時の生活の様子を物語る記述がなされた学校日誌など、今となっては貴重な資料があったことなどが紹介された。これから大栄地区の小学校5校も閉校になる。その際、学校に残された資料をよくよく調べて、保存すべきものと廃棄しても良いもの等、学校の判断だけで処分しないよう求めていく必要があることを講師の先生の話から感じたところである。

## 市議会

○11月27日～12月16日 平成27年度12月成田市議会定例会について

12月1日から4日まで一般質問があった。今回は20人の議員から質問があり、そのうち、教育委員会への質問をされた議員は10名だった。特に給食に関する質問が多く、答弁の原案を考えていただいた当該部署の職員には大変ご苦勞をおかけした。給食に関する質問が多く出た理由の一つは、来年度給食費の値上げを計画しているという話が議員間でも話題になったからだと思うが、その理由についてはしっかりと根拠があり、私たちはそれをきちんと説明したいと思っていたところなので、そういう意味では大変だったがタイムリーな質問であったと思っている。また、使用食材のことで地元産、特に成田市産を、という声が大きく、今回も何人かの方が同じような質問をされていた。地元野菜を積極的に利用するには比較的小規模な親子方式の調理場を整備することが急務であるので、今後も計画通りに進行するよう努めたい。

○12月8日 教育民生常任委員会

教育民生常任委員会では、教育委員会からの提出議案は既にお知らせのとおり、公津の杜小学校学校給食共同調理場の設置に関する件、成田国際文化会館、大栄野球場外4施設、中台運動公園外3施設の指定管理者の指定に関する件の4議案であり、全て全会一致で原案のとおり可決された。なお、委員会でも一般質問で出された給食費の値上げの問題が取り上げられたため、私からも答弁させていただいた。値上げの理由は、給食の質を平成19年度の水準にまで戻したい、ということの一点につきる。「食材は地元産を利用すべきだ。しかし値上げ幅はもっと小さく」では、給食の提供者としてその両方の要求に応えることはできない。保護者の方にもしっかり説明し、値上げについて理解を得ていきたい。

## その他

### ○11月20日 平成27年度印旛地区教育委員会連絡協議会研修視察について

全委員が参加したので、それぞれの方々にご感想を伺いたいが、ここでは私の感想を述べたい。最初に見学したのは千葉県立一宮商業高校。商業高校の見学というより、高校の授業を見るのは今回が初めてだったので非常に新鮮な印象を受けた。中学校と違って、生徒たちは自分の目指す道がしっかり見えているからか、一人ひとりがよく考えて学習している様子がわかった。3年生と2年生の授業を見せていただいたが、学年が進むほど真剣な表情で学んでいる。高校生も3年生ぐらいになると、誰もが自分の将来について真剣に考えざるを得ない。そこがいい。

午後からは、いすみ市立大原中学校も視察させていただいた。丘の上の大きな学校で、いかにも地域のシンボリックな存在感のある学校だった。この学校が得意としている集団行動の演技や全校生徒による校歌の合唱を見せていただいたが、「凄い」の一言である。子ども達は決して嫌がってはいない。良い顔をしている。訓練すればここまでできるという良い見本である。この方式の是非については賛否両論あると思うが、一つのことを徹底するという意味ではこれこそ教育の成果だと感じさせられた。振り返って本市の教育を思うに、まだまだ不十分なところがあり、それは「徹底できない」という点にある。校長をリーダーにして一つの方向に向かう力強い集団ができないと、徹底は難しい。子どもを育てながら教員を育てなければ教育に未来はない。ひいてはそれがこの国の命運を握ることになる。私自身の心がまえについても反省させられる一日だった。

### ○12月5日 一般社団法人成田市体育協会創立60周年記念式典・祝賀会について

成田市体育協会が設立されてから60年という節目の年だということで、記念式典が開催された。成田市が市制61年目なので、市制施行とほぼ同時期に体育協会が設立されたことにな

る。昭和30年という、まだ学校給食も始まっていないし、テレビはおろか、洗濯機、冷蔵庫、掃除機などの家電は何もない苦しい時代だった。そんな時に既に体育協会が設立されたというのは凄いことだと思う。食べるのがやっとの時代だから体育大会どころではなかったかもしれない。体育協会は今年度から一般社団法人として教育委員会事務局から独立した。新たな歴史の始まりである。そういう意味では、この日の記念式典は大変意義のあるものだった。

#### ○12月 6日 第85回印旛郡市駅伝競走大会について

佐倉市の岩名運動公園陸上競技場をスタート・ゴールとする歴史と伝統のある駅伝競走大会が開かれた。昨年に続いて今年もなかなか上位につけないままゴールし結果は第5位であった。大学生ランナーを3人起用した印西市が大会新記録で優勝した。一方、中学生の部では、大栄中Aチームが26チーム中第2位でゴールした。区間賞も8区間中2区間で取るなど健闘した。

#### ○12月 6日 スポーツ推進委員連絡協議会表彰祝賀会について

長きにわたって体育指導委員、スポーツ推進委員として活動された金井明久さんが全国スポーツ推進委員連合から30年勤続表彰を受けた。また、千葉県スポーツ推進委員功労者として菅沢くみ子さんが表彰を受けたことをお祝いする会が開かれ、出席した。お二人の地域スポーツの発展と健康な身体づくりへの貢献に対して敬意を表すると同時に、スポーツ推進委員皆さんの日頃のご労苦に感謝したい。

#### ○12月 9日 千葉ロッテマリーンズ成田後援会2015年度会員と選手との交流の夕べについて

日航ホテルで千葉ロッテマリーンズの選手との交流会が開かれた。今年は、岡田、加藤、香月、大嶺の4選手が出席され、ロッテファンとの交流を行った。今年のロッテはクライマックスシリーズに進出したが、日本シリーズを戦うまでには至っていない。ファンとしては不本意な結果に終わったが、次年度こそ頂点を目指して、と言う大きな声援が飛んでいた。私は香月選手と隣り合わせに座ったので、いろいろ尋ねてみた。「ロッテ選手の中で投手は40人以上いるが、一軍に入れるのは10数人。ここまでがとても厳しい。」という話をされていた。香月選手は中継ぎ投手として今シーズン40試合に登板して1勝1敗1セーブ。いつでも試合で投げられるように投球練習をして備えているとのこと。本番の試合で投げるより、備えのピッチングの方がずっと長いと言っていた。「何年も働けるわけではないので、できるときに精一杯やらなければいけない」という言葉が印象的だった。来年はぜひ脚光を浴びる活躍をしてほしいと願わずにはいられない。

#### ○12月10日 北総教育事務所との人事異動構想情報交換について

北総教育事務所から藤井管理課長がお見えになり、市の教職員人事異動構想を聞いていただ

いた。今年度末は小学校6名、中学校2名の計8名の校長、1名の小学校教頭が定年退職を迎える。次年度もほぼ同様の人数の管理職が定年を迎える。ここ数年で管理職が一新するほどの大きな世代交代である。教育委員会事務局人事も含め、県教委との連携を密にして年度末人事にあたりたい。

○12月11日 矢野剛先生叙勲伝達について

昭和38年4月から平成20年3月まで45年間にわたり、市内の学校医としてご指導いただいた、矢野剛先生が瑞宝双光章を受賞されたので、その伝達を行った。88歳と高齢であっても未だに診察をなされる時があるとのこと。講道館柔道8段というお話もお聞きし、驚いたところである。奥様も医師で、昨年まで学校医をされていた方。今後ますますご夫婦そろってお元気で過ごされることをお祈りしたい。

○12月13日 成田市青少年感動芸術劇場「クリスマスファミリーコンサート」について

成田国際文化会館で開催された。今年も、成田小、美郷台小、吾妻小、平成小、公津の杜小、加良部小の6校が出演した。前半が小学校の児童の合唱、後半が、「井上あずみ&ゆーゆ」のクリスマスファミリーコンサートという内容だった。私は都合で前半部分だけ参観した。子ども達の合唱があるということで、そのご家族と思われる方々が大勢来場されていて、会場はほぼ満席状態だった。面白かったのは、井上あずみさんが、子どもたちにインタビューした時のこと、将来なりたい職業を聞かれ、「薬剤師」とか、「警察官」と応えた6年生の女の子に井上さんもびっくりした様子だった。「歌手」とか言われるのかな、と思っていたそう。会場も、一瞬、静まり返った後、「へーっ」というような声が聞こえてきた。さすがに今の子はしっかりしている。

○12月14日 第25回世界少年野球大会千葉大会第2回実行委員会について

千葉市のポートプラザで開催された。世界少年野球大会は8月に終了しているが、その後の事務処理を終え、この日、事業報告と収支決算、決算余剰金の取り扱い、今後の会計事務の委任、そして組織委員会と実行委員会の解散について協議し、すべて原案どおり可決された。この日をもって本大会がすべて終了したことになる。参加した子ども達はもちろんのこと、支援してくれた多くの関係者の方々、何よりも運営に直接携わったスタッフの皆さん、それぞれが良い思い出をつくれたのではないだろうか。このタイミングで自分もこの大会に関わることができたことを本当にうれしく思う。皆さん本当にご苦労様。ありがとう。

○12月17日 葛生輝男先生叙勲伝達について

葛生輝男先生が高齢者叙勲、瑞宝双光章をお受けになったため、本日午前中にその伝達を行ってきた。葛生先生は88歳で、昭和23年大須賀小学校教諭からスタートし、昭和57年に

酒直小学校の校長、昭和60年に名木小学校の校長としてご活躍され、昭和63年3月31日、ご退職された。香取、印旛両地区、そして、小中それぞれの学校で勤務され、特にご自身の専門教科である音楽教育で力を発揮された。

#### 《教育長報告に対する主な質疑》

委員：印教連の視察研修の感想について述べさせていただきます。

県立一宮商業高校については大変にエネルギッシュな校長先生であり、1時間があったという間の講演であった。生徒の自己有用感の醸成に努められている様子がよくわかった。例えば地域住民を対象としたパソコン教室を開催したり、小学生の登下校指導に高校の生徒が関わったり、地域の観光や商工業の活性化への提案や実践を行ったり、自分たちが役に立っているということを、生徒に意識させていた。教育長報告にもあったが、学年が上がるに従って、目標がより明確になっていくということについては、こうした学校の取り組みが功を奏しているのだと感じた。自分の高校時代と比較しても意識の違いが感じられ、あらためて商業高校の生徒を見直す思いであった。

いすみ市立大原中学校では、全校合唱や集団行動、そして長縄8の字連続跳びにひた向きに取り組んでいる姿に感動した。初めは、体育会系の指導かと思ったが、時にはユーモアを交え、生徒の気持ちを捉えながらの指導に安堵した。この集団行動、長縄8の字連続跳びは日体大出身の体育主任の先生がいたからこそできる内容で、どの学校でもできるものではないのかもしれないが、チームワークや達成感を子どもたちに味わわせるためには、効果的な指導方法ではないかと感じた。例えば組体操のようにけがにつながるような取り組みに比べても、チームワークを醸成するためには有効ではないかと感じた。一宮商業高校にしても大原中学校にしても、大変勉強になり、事務局の八街市教育委員会はいいい視察先を選定していただいたと思う。

委員：印教連の視察研修の件についてであるが、商業高校は県内でも少なくなってきたおり、授業を見る機会もなかなかないが、一宮商業高校では商業の仕組みや実践について授業を通して生き生きと学んでおり、学校全体で一生懸命取り組んでいる姿が印象的であった。生徒たちは自信を持って町内の清掃活動や小学生の登下校指導などに取り組むとともに、祭りなどへ積極的に参加しながら町とともに頑張っている姿を校長先生の話からうかがい知ることができ、地域と密接に関わり合った教育が行われている

ることについては感動を覚えた。

また、大原中学校については、子どもたちのエネルギーを合唱や集団活動など前向きな方向へ導いている、これは体育主任の先生が中心になっているのだと思うが、素晴らしい学校経営が行われていた。子どもたちが生き生きと頑張っている姿を見て、やはり学校はこうあるべきだと感じた。こうして素晴らしい2校の学校を視察し、こうした取り組みが今後成田市の学校教育にも生かしていければいいのではないかと感じた。

また、12月1日に秋田県の大仙市立西仙北小学校を視察してきたので、その内容を話したい。秋田県は県の人口が100万人程度だが、知事の人口流出を防ぐためにも教育に力を入れていかなければならない、県をあげて教育に取り組むのだという姿勢がよく分かった。秋田県には秋田県検証改善委員会があるが、県として学校改善支援プランを策定し、秋田県探求型授業の一層の推進、特色ある校内研修の推進、検証改善委員による提言などに取り組んでいる。例えば数学の授業では、県が授業プランを作り、指導の在り方について県の指導主事が市の指導主事に伝達し、市ではそれに則って授業を行っている。このように県が一生懸命に取り組んでいる姿が垣間見えた。また、大仙市でも「大仙市の学校教育」という方針をまとめて、市をあげて学校教育に取り組んでいた。秋田県の学力は全国第1位だが、大仙市は秋田県の平均よりも上位とのことで、相当高いレベルにある。西仙北小学校ではいろいろと質問させていただいたが、何がすごいかというと、学力向上に対して市をあげて、学校をあげて取り組んでいることである。当時のゆとり教育の中で、その逆のやり方で、100マス計算や古典の暗記等で基礎学力の向上で実績をあげた陰山先生という方がいるが、その手法を取り入れているようであった。教室の後ろの壁には竹取物語と徒然草が掲示してあって、児童はこれを暗記し、発表する機会がある。また、普通、授業では終わりにまとめを行う、これは成田市の学校でもやっていると思うが、西仙北小学校ではまとめの後に振り返りということで、これを自分の言葉でノートに書いていく。これが大きな違い。

家庭学習の時間では、学年×10分というのが一般的だと思うが、大仙市では、これにプラス10分だということである。また、近隣には塾が少ないことから、塾に行っている子どもがあまりいない。そういう中で、家庭においてパソコンやスマートフォン、携帯電話で遊ぶ子どもはおらず、ほとんど勉強をしているという。

子どもたちがいきいきと楽しそうに勉強し、積極的に発表している姿は印象に残っ

た。

国語では、学年が上がると新しく出てくる新出漢字というものがあるが、入学、進級するとすぐにこの漢字を全部覚えさせるそうである。これで単元が変わっても全部漢字が分かっていることになる。先ほど話した、授業の振り返りを行うことで、子どもたちのどこが変わるかというところ、記述式問題における無回答率の低下に表れているそうである。小学校国語の記述式問題における無回答率が全国平均では13%程度のところ西仙北小学校では3%程度だという。小学校算数では、全国平均が約7%に対して約2%、中学校国語では全国平均約9%に対して約3%、中学校数学では全国平均が約17%のところ約7%と、記述式問題で何も書けないという子どもの割合が相当低くなっており、これが大仙市の学校教育の成果だと思う。

こうして、素晴らしい取り組みについていろいろと伺ってきたので、今後の教育委員会会議の中でも参考になる意見を述べさせていただきたい。

また、国際教養大学の図書館も視察させていただいたが、この図書館は学生ならば24時間利用することができる。秋田杉をふんだんに使用したユニークなデザインだが、何段にもなる書架には外国語の書籍ばかりが並んでいる。そして、写真撮影をする際のシャッター音すらうるさく聞こえるような静けさの中で、半数は外国人と思われる国際色豊かな学生たちが真剣に勉強に励んでいた。こうして、今回の視察では、百聞は一見にしかずというが、秋田県の素晴らしい教育への取り組みを見て大変参考になった。

委員：秋田県の西仙北小学校と国際教養大学の視察研修をさせていただいたので、その話をさせていただく。西仙北小学校は児童数が350人ほどのそれほど大きな学校ではないが、教務主任の先生からは自信ある説明を受けた。その説明の態度を見ただけで、この学校はできるということを感じとることができた。学校がこういう指導をして、児童たちがこういう学習をしているのだから、当然できるようになると考えているのだと思う。いろいろな取り組みがなされていたが、実際には目にしないとわからない部分もあると思うので、教育委員会事務局においても機会があったら、視察されることをお勧めしたい。各学級に支援の必要な児童がいても、教員ではない生活指導員という方が、その児童に寄り添って順調に授業を受けることができるよう、手厚く支援している。学力向上の取り組みの説明では、例えばノート1冊とってもすべてA4の方眼ノートを使うなど、ヒントとなることは沢山あったので、機会があれば是非、視



察をしていただきたいと思う。

委員：やはり視察させていただいた西仙北小学校についての話になるが、印象に残ったこととして授業の振り返りがある。その日に学んだことを授業の最後に2、3行にまとめて自分の言葉でノートに書く。実際に子どもたちのノートを見せてもらったが、学年が上がるほどよく書かれていて、今日はよくわかった、どこが分からなかったなど、自分はどこが分かって、どこが分からなかったのかを振り返ることにより、それを見た先生や保護者も、その児童がどこを分っていないかを知ることができて、いい取り組みだと感じた。他に気づいたところでは、教室の壁に習字の作品が掲示してあるが、朱線の直しがまったくない。その理由は、児童の作品なので、教師が手直しはしないという考え方によるとのこと、そういった考え方もあるものかと感心した。先日のつくば市の春日学園の視察もあったので、ICT教育については興味があったところだが、聞いてみると図工の授業の一部で活用しているだけで、ほとんど取り入れていないとのことであった。実際に授業を見てみると、人対人の暖かみのある授業であった。ICTを活用した授業と比べてどちらがいいとは一概には言えないが、成田市では、両方のいいところをとってその中間を目指せたらいいのではないかと感じた。

また、印教連で視察した一宮商業高校では生徒と少し話をさせていただいたが、簿記やITの資格を積極的に取っていた。簿記についても全商簿記だけでなく日商簿記まで持っていることに驚き、また話の受け答えもきちんとしており、この生徒たちは高校卒業後には即戦力として活躍することができるのではないかと思った。大原中学校の集団活動は素晴らしいものがあつたが、中にはなじめない生徒もいるのではないかと心配になる面もあつた。

スカイタウンホールで12月13日に行われた江戸長唄は、演目が4曲で物足りないと感じるほど大変すばらしい内容であった。最後の勸進帳ではセリフもあり臨場感も迫力もあつたが、私のような初心者にとっては言っていることがよくわからなかった。詳しい方に尋ねると場所によっては、モニターに歌詞を表示したり、配布するパンフレット等に歌詞を入れたりすることがあるとのことであったので、次回があれば、こうした配慮についても検討いただきたい。

### 3. 議 事

(1) 議案

(議案第1号及び報告第1号は成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第1号 平成27年度印旛地区教育委員会連絡協議会教育功労表彰者の推薦について

《審議結果》

可決

(2) 報告事項

報告第1号 訴えの提起について(土地共有持分移転登記請求事件)について

(3) その他

- ・学校給食費の支払督促に係る督促異議の申立てについて  
(成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<非公開を解く>

- ・ふれあいコンサートについて
- ・クリスマスコンサート in スカイトウン
- ・成田寄席について
- ・新春書道・華道展について

4. 教育長閉会宣言